

平成 29 年度地域づくり海外調査研究事業調査報告書

生涯活躍のまちづくり

調査地 : アメリカ合衆国 マサチューセッツ州

視察先 1 ラッセル・ビレッジ

視察先 2 ビーコンヒル・ビレッジ

調査日 : 平成 29 年 6 月 27 日

平成 29 年 9 月

一般財団法人 地域活性化センター

振興部 地域支援業務課 山下 能央

## 目 次

1	埼玉県における高齢化について	
(1)	埼玉県における高齢化の現状	P1
(2)	埼玉県の取組	P2
(3)	国の動き	P3
2	アメリカの CCRC について –ラッセル・ビレッジ(大学連携型 CCRC)視察–	
(1)	アメリカにおける CCRC の現状	P4
(2)	ラッセル・ビレッジについて	P5
3	ビレッジ・ムーブメントについて –ビーコンヒル・ビレッジ視察–	
(1)	ビレッジ・ムーブメント	P7
(2)	ビーコンヒル・ビレッジについて	P9
4	まとめ	P11

## 1 埼玉県における高齢化について

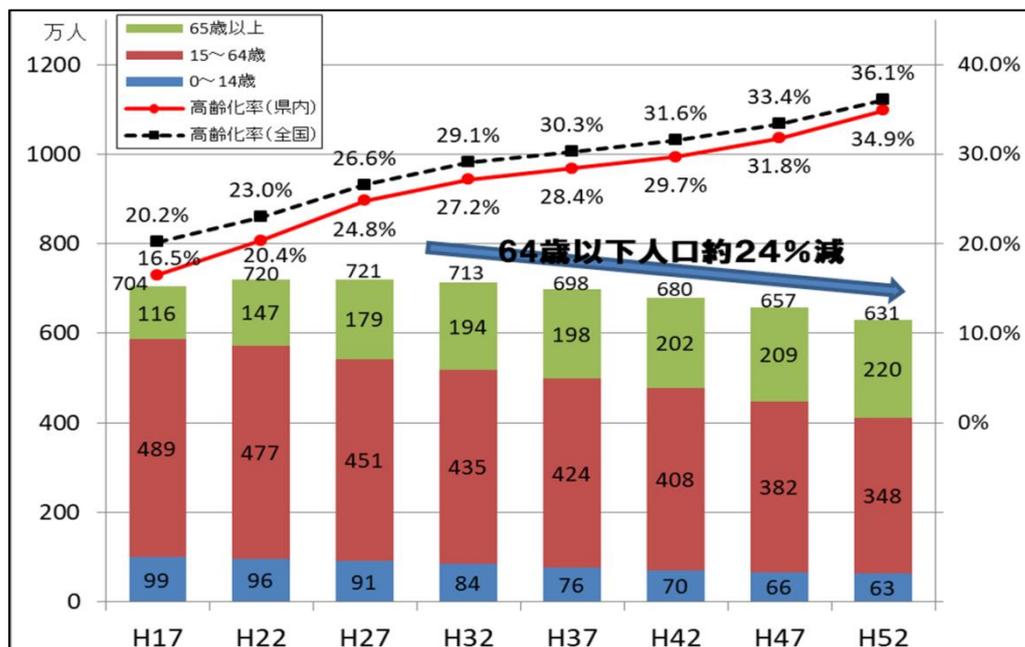
### (1) 埼玉県における高齢化の現状

埼玉県の人口は一貫して増加しており、平成 29 年 7 月 1 日現在で約 730 万人と、人口規模は全国第 5 位である。住宅や学校、公共施設などが密集している地域も多い。しかし、国立社会保障・人口問題研究所によれば、今後、埼玉県の人口は減少していくと推計されており、平成 27 年から平成 52 年までに約 14%の人口が減少し、約 630 万人となる見通しである。

また、埼玉県は全国と比較して若い県と言われてきたが、平成 27 年の高齢化率は 24.8%と 4 人に 1 人が高齢者となっている。国立社会保障・人口問題研究所によれば、高齢化は今後も進むことが予測されており、平成 32 年頃になると、医療・介護の必要性がより高まる 75 歳以上の後期高齢者人口が、65 歳から 74 歳までの前期高齢者人口を逆転すると推計されている。これは、平成 32 年以後に団塊の世代が 75 歳以上となりはじめるためである。

また、後期高齢者は、平成 27 年頃からピークをむかえる平成 42 年まで約 61%増加し、その数は約 124 万人になると見込まれている。この増加率は全国でも類を見ない数字であり、異次元の高齢化が進んでいくと言える。

【埼玉県の総人口と高齢化率の推移】

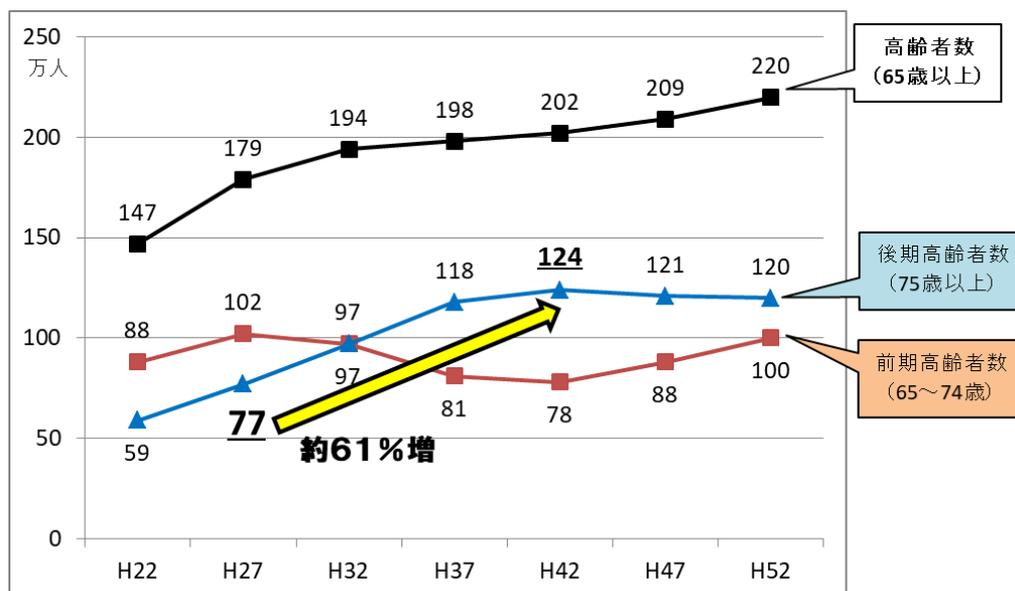


(出典) 埼玉県福祉部高齢者福祉課 HP から引用

※H17~H27 国勢調査

H32~ 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

### 【埼玉県の高齢者人口の推移】



(出典) 埼玉県福祉部高齢者福祉課 HP から引用

※H17～H27 国勢調査

H32～ 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

## (2) 埼玉県の取組

上記のとおり、埼玉県では後期高齢者人口が急速に増加するため、医療・介護の需要が増大し、その一方で生産年齢人口の減少による社会の活力の低下が懸念されている。そこで、県では次の5つを基本目標とする「埼玉県高齢者支援計画」を定め、様々な施策を展開している。

- ①高齢者の健康・生きがいづくりと安心して暮らせるまちづくり
- ②住み慣れた地域での暮らしを支える体制づくり（地域包括ケアシステムの構築）
- ③介護保険施設等の整備
- ④介護人材の確保・定着
- ⑤介護保険の円滑な制度運営

以上の5つを柱とし、社会参加が可能で元気な高齢者が「共に社会を担う側」として活躍することで、社会の活力を高めていくことを目指しているほか、医療や介護が必要となった場合でも、住み慣れた地域で安心して生活できる社会をつくるための様々な取組を行っている。例えば、就業支援や生涯学習など多様な学習機会の提供を行い、高齢者が活発に活動できるよう取り組んでいるほか、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、地域包括ケアシステムの構築を進めている。そのほか、高齢

者が多様な生活支援サービスの担い手となり、社会的な役割を担ってもらうための取組や、健康長寿、認知症など各分野のサポーター養成、介護人材の育成・確保など、人材の育成・確保などにも取り組んでいる。

### (3) 国の動き

人口減少や高齢化、生産年齢人口減による活力低下は埼玉県に限った話ではなく、日本全体の課題である。そのため、国は高齢者対策として、就業・年金等分野や健康・介護・医療等分野、社会参加・学習等分野、生活環境等分野など各分野にわたり施策を実施することとしている。

そのうち、生活環境等分野に係る基本的施策のひとつに、高齢者対策と地方創生の観点を組み合わせたものがある。それが「生涯活躍のまち（日本版 CCRC）」（以下「日本版 CCRC」という。）の推進である。

CCRC とは、「Continuing Care Retirement Community」の略で、アメリカが発祥の高齢者が暮らす共同体の形式である。高齢者がそれまで居住していた地を離れて移り住み、健康時から介護や医療サービスが必要となる時期まで継続的にケアや生活支援のためのサービスを受けられる施設又は地域のことをいう。その CCRC をもとに日本の実情に合わせて普及しようとしているのが、日本版 CCRC である。

日本版 CCRC は、高齢者が希望に応じて地方や「まちなか」に移り住み、様々な世代の地域の住民と交流しながら就労や生涯学習、社会活動への参加等を通じて健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくりを目指している。

この日本版 CCRC について、平成 27 年 12 月 11 日の「日本版 CCRC 構想有識者会議」による『『生涯活躍のまち』構想（最終報告）』では、日本版 CCRC が目指す基本方向として、次の 7 つの項目を示している。

- ① 東京圏をはじめ地域の高齢者の希望に応じた地方や「まちなか」などへの移住支援
- ② 健康でアクティブな生活の実現
- ③ 地域社会（多世代）との協働
- ④ 「継続的なケア」の確保
- ⑤ IT 活用などによる効率的なサービス提供
- ⑥ 入居者の参画・情報公開等による透明性の高い事業運営
- ⑦ 構想の実現に向けた多様な支援

この中で注目したいのは、地域との関わりを重視している点である。「②健康でアク

ティブな生活の実現」では、日本版 CCRC への入居は、健康な段階からの入居を基本とし、地域と連携して、高齢者が健康づくりや就労、生涯学習など社会活動等に参加することによって、健康で活動的な生活を目指すとしている。「③地域社会（多世代）との協働」では、入居者が積極的に地域社会にとけ込み、子どもや若者など多世代との協働や地域貢献ができる環境を構築するとしている。地方創生の観点に加え、高齢者が地域社会と関りを持ち、活動的な生活を送ることで、認知症や要介護状態になることとのリスクを抑えることを目的としていることが考えられる。

このような国の動きの以前から、またはそれに呼応する形で、各地で日本版 CCRC の取組が始まっている。例えば、石川県金沢市の「シェア金沢」は日本版 CCRC の先駆的事例と言われており、意図的に子供、大人、高齢者、障害者の人たちが交流する機会と場を設けている点が特徴的である。また、山梨県都留市では、CCRC と市内の都留文科大学等が連携し、高齢者、学生間の交流や生涯学習の推進などを目的とした大学連携型 CCRC の検討をしているところである。埼玉県内においても秩父市が豊島区と連携し、いち早く日本版 CCRC の検討を行っている。これ以外にも検討している地域が数多くあり、高齢者支援と地域の活力を高める取組である日本版 CCRC は、現在注目されている施策の一つと言える。

このような動きを踏まえ、今回の地域づくり海外調査研究では、CCRC の発祥地であるアメリカを調査対象とする。また、CCRC については、アメリカにおいても否定的に考える人がおり、それによって生まれたビレッジ・ムーブメントがある。CCRC とビレッジ・ムーブメントを起こした支援方法を調査し、今後の埼玉県における可能性や取組の方向性について検討する。

## 2 アメリカの CCRC について —ラッセル・ビレッジ(大学連携型 CCRC) 視察—

### (1) アメリカにおける CCRC の現状

アメリカにおける CCRC の歴史は古く、約 100 年前の 1900 年代に、宗教系の団体が、家や資産を提供した高齢者に対してケアを提供したのが始まりとされている。その後、1970 年代になって、元気なうちから入居し、最期まで面倒を見てくれる住居形態を持つ CCRC が急速に増え始めた。1990 年代には、大学と連携し、多世代交流と知的刺激の要素を持った大学連携型 CCRC が登場した。現在は、全米に約 2,000 ヶ所の CCRC があり、約 75 万人が暮らしている。

アメリカの高齢者住宅は介護サービスの必要な度合に応じて、主に 3 段階に分類される。第一に、介護ケアや日常生活補助を必要とせず、自立した生活を送ることができる高齢者が対象のインディペンデント・リビング (IL) である。そこでは、食事などの生活支援や様々なイベント、運動、健康増進プログラムなどが提供される。第二に、日常生活において簡単な介護が必要となる高齢者が対象のアシテッド・リビン

グ (AL) である。そこでは、食事と着替え、トイレ、入浴、移動、寝起きといった日常生活に必要な最低限の動作への支援が提供される。第三が、医療を含む高度の介護が必要となる高齢者が対象のスキルド・ケア (SC) またはナーシング・ホーム (NH) である。そこでは、24 時間体制の医療ケアが提供される。この 3 段階の支援すべてが居住者に提供されるのが CCRC である。

## (2) ラッセル・ビレッジについて

今回は、大学連携型 CCRC であるマサチューセッツ州ニュートンの「ラッセル・ビレッジ」を視察した。

ラッセル・ビレッジは、私立大学のラッセル・カレッジが自ら非営利の運営会社を設立し、キャンパス内に設立した CCRC である。

ラッセル・カレッジは、1990 年代に財政難から破綻寸前に追い込まれ、新たな収入源を確保するため、キャンパス内に高齢者のコミュニティとなるシニアセンターを建設することを計画した。市から建設許可を受けたが、近隣の住民が反対し、市に訴訟



▲ ラッセル・ビレッジ外観

を起こす事態となったことから、市と住民が話し合いを行った結果、建設推進の条件として、シニアセンターに教育の要素を持たせることになった。そこで、ラッセル・カレッジは、教育と福祉が密接に連携した CCRC をキャンパス内に建設することとなったが、その結果として、ラッセル・ビレッジは成功することになる。

ラッセル・ビレッジ内の建物は 3 階建となっており、全部で 15 棟ある。居住スペースは介護の度合によって居住階が分かれており、1 階は IL となっており、自立して生活できる高齢者が、2 階は AL として簡単な介護を要する高齢者が、3 階は SC として医療を含む重度の介護を要する高齢者が居住している。部屋は全部で 182 室あり、215 名が居住している。

ビレッジ内には看護師等が常駐するウェルネスセンターが設置されて、居住者の健康診断や健康・介護の相談などを行うことが可能となっている。また、24 時間利用可能なフィットネスジム、プールなどがあり、健康維持のためのフィットネスプログラムが実施されている。そのほか、絵画や焼き物、彫刻などの創作ができるアートスタジオや居住者が腰を曲げずに作業ができるように、通常よりも高く作られた花壇などがある。これらは居住者のサークル活動など趣味の場として利用されており、憩いの

場にもなっている。

居住者が生活する部屋は 1 人用と夫婦用があり、部屋の大きさも複数ある。カーペットや壁紙などの内装は居住者の好みによって変更することができ、自分の家に住んでいるかのように生活することができるようになっている。



▲ ラッセル・ビレッジ内の花壇



▲ 部屋の様子

そして、最大の特徴は、入居条件としてラッセル・カレッジの学生とほぼ同じ年間 450 時間以上の学習活動が求められている点である。ラッセル・カレッジの教育課程は 3 学期制となっており、1 学期は約 13 週となっているが、そのうち 3、4 週について、学生とともにラッセル・ビレッジで授業を受けることとされている。居住者は、文学や哲学、歴史、政治、法律、音楽といった人文・社会科学系、及び芸術系の授業に大学生とともに参加し、討論なども行っており、居住者が講師となって歴史や政治の講義をすることもある。なお、授業料は不要（入居費用に含まれている）であり、事前に申し込むことで好きな授業に参加することができる。また、ラッセル・ビレッジの各棟には図書室や自由に使用できる教室があり、勉強や話し合いができる環境が整えられている。

なお、授業参加は必須であるが、全ての授業に参加する必要はなく、最低限、ラッセル・ビレッジで開催される授業に参加すればよいこととされている。また、ボランティア活動や仕事をしている場合は、その時間を学習時間とみなすことができる。

以上のとおり、ラッセル・ビレッジは、高齢者にとって単なる高齢者住宅ではなく、生涯学習の場、知的刺激を受けられる場となっている。また、多世代交流として、授業での交流以外にもラッセル・ビレッジで学生のインターンを行っており、インターン生は、スタッフとしてダイニングルーム等で働き、居住者とコミュニケーションを取りながら良好な関係を築いている。過去のインターン生の中には、卒業後にラッセル・ビレッジのスタッフとなった者もあり、人材確保にもつながっている。

また、ラッセル・カレッジ内に 2 つある保育施設で、居住者が 1 週間に数時間子ど

もたちの面倒を見るなどのボランティア活動をしている。また、保育施設の小さな子供たちが年に 1、2 回居住者のためにパフォーマンスや歌を披露するイベントを行うなど、活発な交流を行っている。

このように多世代交流や知的刺激を受ける機会を設けることで、居住者には精神面で良い効果が表れている。ラッセル・ビレッジでは文学や芸術など共通の関心・興味によって、容易に他人とつながりができ、皆が楽しく話し合うことができるコミュニティができており、居住者は他の CCRC と比べ非常にいきいきと生活をしているとのことである。

健康面でも良い効果が出ている。一般的な CCRC では医療を含む高度な介護が必要な者は居住者の約 10%とされている。しかし、ラッセル・ビレッジでは約 5% (215 名中 10 名程度) に留まっており、知的刺激や前述のようなコミュニティの存在が良い影響をもたらしているものと考えられる。

なお、ラッセル・ビレッジの入居費用は、部屋の大きさにより異なるが、1 人用の部屋で入居費用が \$ 436,000 (約 5,000 万円)、毎月の費用が \$ 4,001 (約 50 万円) となっている。入居者が退去する際に親族または遺族に入居費用の 90%が戻ってくる仕組みになってはいるが、知的サービスを含めた価格であるため、一般的な CCRC に比べてかなり高額となっている。しかし、入居待ちが出るほど人気となっており、その理由は、充実した施設に加え、活発なコミュニティ活動が行われるなど生きいきと生活できる環境が整えられており、お金では買えない環境があるからだと考えられる。

### 3 ビレッジ・ムーブメントについて —ビーコンヒル・ビレッジ視察—

#### (1) ビレッジ・ムーブメント

1990 年代のアメリカにおいて、高齢者の多くは、暖かい地域や坂が少ない地域で暮らすことを望み、そのような地域の老後の支援を受けられる CCRC などの施設に移り住んでいった。しかし、全ての高齢者がいま住んでいるところから移り住むことを望むわけではない。多少の不便さはあっても、かかりつけの医者、行きつけの食料品店があり、友人や近所の人との付き合いを続けられる暮らしを維持していきたいと考える高齢者も多い。

そのような中、マサチューセッツ州ボストンのビーコンヒル地区に住む 65 歳前後の高齢者達が、子どもの助けなしで自立して自宅に住み続けるとともに、サポートが必要な時にサポートを受けられるようにする方法を検討した。そして、2002 年に隣人らと協力して在宅高齢者に家事、買い物、通院などの支援をする NPO 団体「ビーコンヒル・ビレッジ」を設立した。

2006 年、ニューヨーク・タイムズ紙がビーコンヒル・ビレッジについて「在宅高齢者の自立生活を支援する目的で設立された画期的な団体」と報じたことで、その名は

全米に広まった。その後、全米で同様の団体を設立する「ビレッジ・ムーブメント」と呼ばれる現象が起こり、今では約 200 の団体が存在している。

## (2) ビーコンヒル・ビレッジについて

ビレッジ・ムーブメントの発端となったビーコンヒル・ビレッジを視察し、創設メンバーの一人とエグゼクティブ・ディレクターから話を聞いた。

マサチューセッツ州ボストン中心部のビーコンヒル地区は、風情のある煉瓦建ての家が多く、非常に美しい街である。この街にあるビーコンヒル・ビレッジは、高齢者が住み慣れた自宅で出来るだけ長い間住み続け、近所の人達との関係性を維持することを目的として、各種サービスやプログラムを提供する住民設立の NPO 団体である。各種サービス等を受けるには会員になる必要があり、年会費は 1 人の場合は \$ 675 (約 7 万円)、夫婦 (家



▲ ビーコンヒル地区の様子

族) の場合は \$ 975 (約 11 万円) である。なお、低所得者 (年間所得 \$50,000 以下) については、年会費が 1 人 \$110、夫婦 (家族) \$160 になる。会員資格は 50 歳以上であり、会員数は現在 350 名、平均年齢 78 歳、6 割が一人暮らし、4 割が夫婦 (家族) で、4 割が男性、6 割が女性である。低所得者は、ほとんどが一人暮らしの女性である。

組織運営は、会員で構成される理事会のほか、提供するプログラムやマーケティング、サービスなどを検討する委員会が中心となって行っている。運営予算の収入の内訳は、4 割が会費収入、6 割が個人や団体からの寄付で、活動面及び金銭面において行政の支援は受けておらず、住民による住民のための団体といえる。

ビーコンヒル・ビレッジの活動は、主に次の 3 つである。

### ① 心と体をサポートするためのイベント、アクティビティ等の提供

ビーコンヒル・ビレッジでは、新たな知り合いを作る機会の提供として、土日を除きほぼ毎日イベント等を実施している。具体的には、フィットネスやコンサート、ディナークルーズ、芸術鑑賞のほか、1 か月に 1 回、政治や温暖化などをテーマとした専門家の講演会などを開催している。そのほか、みんなで集まって昼食会や夕食会を開催するなど、内容は多岐にわたる。なお、企画は前述のプログラム委員会が行うほか、会員がリーダーとなって企画、実施するものもあり、会員が事業の実施に積極的に関わっている。

これらのイベント、アクティビティは、共通の興味、関心を持つ人々を集め、コミュニティを形成することで、高齢者の孤立、閉じこもりを防止し、心身ともに充実した生活を送ることができるようにすることを目的としている。

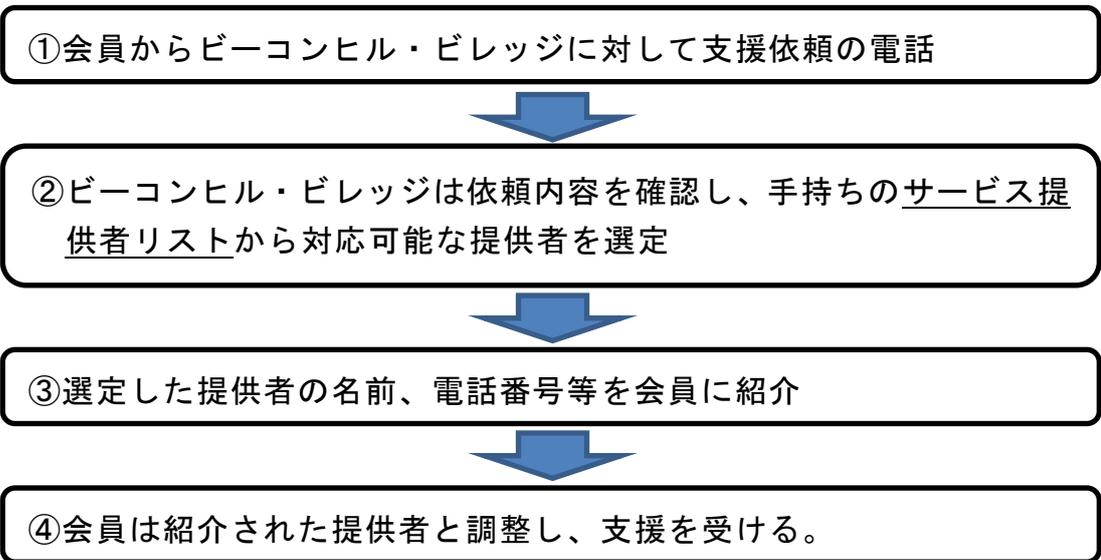
▼ ビーコンヒル・ビレッジのイベントカレンダー

Jul	August 2017						Sep
Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday	
30	31 Total Fitness with Cindy - Beacon Hill (11:00 a.m. - noon) Meditation (8:30 a.m.) -- CANCELLED	1 Grocery Trip (10 a.m. and noon) Total Fitness with Cindy - Back Bay (10:00 - 11:00 a.m.) -- CANCELLED An Afternoon At Joan's (3-5 p.m.) Terrific Tuesdays (4:00 P.M.) -- CANCELLED	2 Total Fitness with Cindy - Beacon Hill (11:00 a.m. - noon) Market Basket (10 a.m.) Ross Kennedy Greenway Walk (10:30 A.M.-Noon) Trader Joe's (noon) Evening Concerts On The Esplanade (7 P.M.)	3 Men's First Drink will resume in September	4 Grocery Trip (10 a.m. and noon) Total Fitness with Cindy - Beacon Hill (11:00 a.m. - noon) -- CANCELLED	5	
6	7 Total Fitness with Cindy - Beacon Hill (11:00 a.m. - noon) Calendar Mailing (10:30 a.m.)	8 Grocery Trip (10 a.m. and noon) The New Inflatable Moment: BSA Space, Lunch At Sportello (11 A.M.; Lunch At Noon) Total Fitness with Cindy - Back Bay (10:00 - 11:00 a.m.) -- CANCELLED	9 Total Fitness with Cindy - Beacon Hill (11:00 a.m. - noon)	10 Saugus Iron Works Historic Site (9:30 A.M.-1 P.M.)	11 Grocery Trip (10 a.m. and noon) Total Fitness with Cindy - Beacon Hill (11:00 a.m. - noon) -- CANCELLED Taxi Coupons (11 - noon)	12	
13	14 Total Fitness with Cindy - Beacon Hill (11:00 a.m. - noon)	15 Grocery Trip (10 a.m. and noon) Total Fitness with Cindy - Back Bay (10:00 - 11:00 a.m.) Lunch Group: Oceanside Seafood Room (Dine Out Boston, 12:30 P.M.) Book Group (2-3:15 P.M.)	16 Total Fitness with Cindy - Beacon Hill (11:00 a.m. - noon) Trader Joe's (10 a.m. and noon) Evening Concerts On The Esplanade (7 P.M.) Blood On The Snow (7:30 p.m.)	17 Frederick Law Olmsted National Historic Site (10 A.M.-12:45 P.M.)	18 Grocery Trip (10 a.m. and noon) Total Fitness with Cindy - Beacon Hill (11:00 a.m. - noon) -- CANCELLED	19	
20	21 Total Fitness with Cindy - Beacon Hill (11:00 a.m. - noon)	22 Grocery Trip (10 a.m. and noon) Total Fitness with Cindy - Back Bay (10:00 - 11:00 a.m.) Tower Hill Botanic Gardens (9-15 A.M.-2:15 P.M.)	23 Total Fitness with Cindy - Beacon Hill (11:00 a.m. - noon) Evening Concerts On The Esplanade (7 P.M.)	24	25 Grocery Trip (10 a.m. and noon) Total Fitness with Cindy - Beacon Hill (11:00 a.m. - noon) Boston Public Library: Boston Lyric Opera (12:30 P.M. Concert)	26	
27	28 Total Fitness with Cindy - Beacon Hill (11:00 a.m. - noon)	29 Grocery Trip (10 a.m. and noon) Total Fitness with Cindy - Back Bay (10:00 - 11:00 a.m.) Candlepin Bowling (10:30 a.m. - 1:30 p.m.)	30 Total Fitness with Cindy - Beacon Hill (11:00 a.m. - noon) Sunset Cruise & Dinner (5:30 P.M. Cruise)	31	1 Grocery Trip (10 a.m. and noon) Total Fitness with Cindy - Back Bay (11:45 a.m. - 12:45 p.m.)	2	

② 人々が求める情報の提供、生活支援サービスの提供

会員は、ビーコンヒル・ビレッジに対して、どのようなことでも気軽に質問をすることができるようになっており、スタッフが丁寧に対応している。例えば、アメリカでは 65 歳になると国から医療保険であるメディケイドを受けられるが、必要な手続きなどについて、個別にアドバイスしている。

また、車での送迎、家の小規模修繕、買い物代行、単なる話し相手といった生活支援サービスを、窓口への電話 1 本で、無料または割引価格で受けることができる。その流れは次図のとおり、シンプルなものである。



ビーコンヒル・ビレッジが持つサービス提供者リストは、犬の散歩や庭の手入れから会計士などの専門職まで約 80 のカテゴリーに分かれており、約 800 名の登録がある。その中から条件に合う提供者を探す際は、まずはボランティアから探し、合致する者がいなければ営利事業者を探す。対応可能な提供者との調整は、基本的には会員が自ら行うが、会員の希望があればビーコンヒル・ビレッジが調整することも可能である。また、サービス提供者を探す際、前述のイベント等の参加によって形成されたコミュニティの会員に依頼する場合もあり、コミュニティのメンバーが怪我人の病院への送迎や買い物代行をしたケースがあったとのことである。

SERVICES OFFERED BY PROVIDERS		
The Village has information on hundreds of providers and can refer you to people providing many kinds of services and advice. These include, but are not limited to, the following:		
Accountant	Firewood	Notary
Acupuncturist	Furniture repair	Nurse advocate
Air conditioning	Gardener	Organizer
Airport pick-up	Geriatric care manager	Painter
Appliance repair	Gutter cleaning	Pedicurist
Babysitter	Hair stylist	Personal trainer
Bartender	Handyman	Pet care
Bicycle shop	Health clubs	Piano tuner
Bill paying	Home health care	Picture hanger
Book donation	Home renovation	Plant care
Carpenter	Home safety	Plumber
Carpet care	Hospice care	Podiatrist
Caterer	Housekeeper	Property manager
Chimney sweep	House cleaning	Reiki practitioner
Closet organization	Lamp repair	Roofer
Clothing alterations	Landscaper	Smartphone or tablet assistance
Computer help	Legal services	Smart TV setup
Concierge services	Locksmith	Snow removal
Contractor	Manicurist	Tailor
Cook	Massage therapist	Transportation
Courier services	Meals at home	Trash removal
Decluttering	Media/audio/TV systems	Tree care or removal
Dentist	Medical advocate	Wall paperer
Dog walker	Medical equipment	Wifi setup
Donations	Medicare, Medicaid	Window repair
Driver	Medication manager	Window replacement
Electrician	Meditation/relaxation practitioner	Window washing
Escort	Memorabilia sorting	Yoga instructor
Estate planner	Movers	
Exterminator		
Financial organizer		

▲ サービス提供者リスト  
約 80 のカテゴリーに分類

また、会員の依頼に合致するサービス提供者がリストにない場合は、ビーコンヒル・ビレッジが新たな提供者を探して会員に紹介するとともに、提供者の許可を得た上でリストに登録する。なお、リストに登録している提供者について、利用した会員の評価が悪い場合はリストから削除することとしており、提供する支援の品質と信頼性を高めるよう努めている。

この生活支援サービスによって、高齢者は自宅に住み続けながら品質と信頼性

が確保された支援を必要な時に受けることができるようになっている。支援はメンバー同士の助け合い、地区のボランティア、厳選された業者によって提供されており、地域で支え合う・助け合う仕組みが構築されている。

### ③ コミュニティに参画する機会の提供

ビーコンヒル・ビレッジでは、会員やボランティアが様々な場面で活躍している。前述の生活支援の提供以外に、ビーコンヒル・ビレッジのスタッフやイベント等のスタッフ、理事会及び委員会の構成員など、ビーコンヒル・ビレッジの活動に参画する機会を地域の人々に提供している。これによって会員のみならず、立場の異なる多くの人々が交流し、地域を支える担い手の育成・確保を図っている。

以上の3つを活動の柱とし、地域の人々が一緒に活動し、助け合うコミュニティの形成・拡大を目的に活動している。このほかにも、入院していた会員に対して退院後、細目に電話確認を行うといったような細かいサポートも行っている。このような取組によって、高齢者が自宅に住み続け、充実した生活を送ることができる地域づくりを実現している。

ただし、設立当初から順調だったわけではない。会員数が伸び悩み、事業計画の変更や資金調達に苦労した時期もあった。それでもここに住み続けるために地道に活動を積み重ねた結果、ニューヨーク・タイムズに取り上げられ、ビレッジ・ムーブメントとして全米に広がっていった。創設メンバーが現在の状況について、「自分たちの考えは間違えていなかった」と言っていたのが印象的であった。

## 4 まとめ

埼玉県の現状とラッセル・ビレッジ及びビーコンヒル・ビレッジでの視察内容を踏まえ、埼玉県における今後の方向性について提案を行い、本稿のまとめとする。

2か所の視察を踏まえ、高齢者支援において重要な点は、次の3点と考える。まず、コミュニティの形成である。2カ所とも高齢者が心身ともに充実した生活を送るためにはコミュニティが重要とされている。コミュニティを形成する手段についても、どちらも共通の興味・関心を基本とし、ラッセル・ビレッジでは多世代交流、ビーコンヒル・ビレッジでは地域での支え合い・助け合いといった手法がとられている。手法は違えども、人々がつながることを重要視している点は共通である。

次に、老後の生活について高齢者全員に選択肢を与えていることである。軽度な支援のみ必要とする高齢者は、施設への入居は以前から選択肢としてあったが、自宅に住み続けるには家族等の支援が必要であり、家族がいない高齢者が自宅に住み続ける

のは困難な状況であった。しかし、今では高齢者がどのような環境にあっても、施設か、自宅かを自由に選ぶことができるよう地域の支援体制が整えられている。

最後に、多様な人材の活用である。スタッフのみで対応するのではなく、子どもや学生、ボランティア、さらにはサービスを受けている高齢者にも活動してもらうなど、多様な人材を巻き込み、活用している。これによって、多くの人に関係し、世代を超えたコミュニティの形成や支え合い・助け合い意識の醸成が図られ、高齢者を支えるとともに担い手の育成にもつながっている。また、高齢者が支援を受けるだけのお客様としてだけでなく、当事者として活動することで、老後の生活を「自分ごと」として捉えることができ、様々な活動やコミュニティへの参画意識も高くなっている。

以上を踏まえて、埼玉県における「生涯活躍のまちづくり」の方向性について検討する。「生涯活躍のまちづくり」を考えるに当たり、CCRCは有力な選択肢である。しかし、国の言う「日本版」にこだわる必要はないと考える。埼玉県の実情に合わせた「埼玉版 CCRC」を検討すべきである。埼玉県の現状や予算、人員などを考えると、新たに施設等を造るのは現実的ではない。大学連携型 CCRC として大学内に設立することも考えられるが、スペースや費用を考えると難しい。そうすると既存施設、既存ストックを活用することが現実的である。

埼玉県には高度経済成長期に建設された住宅団地や多様な分野の大学、研究機関、学校などが多く存在する。また、福祉系の NPO 団体等も多く活動している。そのような環境を活かし、地域にある団地や病院、文化、運動、教育関係機関などが連携した「地域連携型の CCRC」が考えられる。下図は埼玉県内のある地域であるが、半径 2km 以内に団地や病院、大学、劇場などが立地している地域である。例えば、団地の低階層を高齢者向けとし、大学での生涯学習や劇場でのイベント・アクティビティなどの仕組みを整えることで、共通の興味・関心によるコミュニティの形成を図ることができる。また、病院や福祉系 NPO 団体と連携することで、医療支援や生活支援の対応も可能となる。

また、幼稚園から大学まで各種学校が集積しており、それらと連携することで人材活用の面でも多くの世代の協力を得ることが可能である。学習型イベントの実施やボランティア活用など多世代交流の機会をつくることで、多くの世代に支え合い・助け合い意識が醸成され、地域を支える担い手の育成につながると考える。

### 【地域連携型の CCRC】



連携に当たっては、各団体間の調整が最も重要となる。その役割を担うのは、おそらく行政であろう。その際に重要な点は、高齢者も含めた様々な世代・人材による住民参画の確保である。企画や打合せから参加してもらうなど、高齢者や現役世代、さらには次の世代に、地域で支え合う・助け合うことを「自分ごと」として捉えてもらうことが重要である。

以上のとおり、既存の施設を活かしつつ地域の多くの主体が連携することで、高齢者が充実した生活を送ることができ、必要とする支援を受けることが可能となり、高齢者に今の自宅に住み続ける選択肢を与えることができるのではないかと考える。さらには、今後の地域を支える担い手の育成も図られ、強固かつ継続的な支援体制を構築することができるのではないかと考える。

「生涯活躍のまちづくり」は始まったばかりである。行政にとってはこれまでのように自ら事業を実施するだけではなく、多くの人々の参画を促し、当事者意識を持ってもらうことが重要である。また、今回は CCRC に焦点を当てたが、生涯活躍のまちづくりの方策は CCRC だけではない。皆が知恵を出し合うことで、行政だけでは考えもしなかった施策が生まれるかもしれない。「生涯活躍のまちづくり」に欠かせないのは、様々な立場の人々が“つながる”ことではないかと考える。

---

**【参考文献・資料】**

- 矢部 治、『日本より幸せなアメリカの下流老人』、朝日新書、2016 年 9 月
- 内閣府ホームページ、『平成 29 年度高齢者社会白書』、  
<[http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/zenbun/29pdf\\_index.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/zenbun/29pdf_index.html)>、  
最終閲覧 2017 年 9 月
- まち・ひと・しごと創生本部ホームページ、『「生涯活躍のまち」構想最終報告』、  
<<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/meeting/ccrc/saisyu-houkoku.html>>、  
最終閲覧 2017 年 9 月
- 埼玉県高齢者福祉課ホームページ、『埼玉県の高齢化の状況について』、  
<<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0603/koureikajoukyou.html>>、  
最終閲覧 2017 年 9 月
- Lasell Village ホームページ、<<http://www.lasellvillage.org/>>、  
最終閲覧 2017 年 9 月
- Beacon Hill Village ホームページ、  
<[http://www.beaconhillvillage.org/content.aspx?page\\_id=0&club\\_id=332658](http://www.beaconhillvillage.org/content.aspx?page_id=0&club_id=332658)>、  
最終閲覧 2017 年 9 月